

1 歯根肉芽腫 radicular granuloma

臨床所見

- ・自覚症状はほとんどない。
- ・慢性化膿性根尖性歯周炎よりも境界明瞭なエックス線透過像がみられる。

組織学的所見

- ・中心部には、リンパ球や形質細胞を主体とする慢性炎症性細胞浸潤がみられる。
- ・炎症性細胞浸潤周囲に、毛細血管や線維芽細胞、コラーゲン線維の増生を伴って肉芽組織を形成する。
- ・肉芽腫病変内に、**ラッセル小体** Russell bodies や**コレステリン結晶** (針状裂隙), マラッセの上皮遺残 epithelial cell rests of Malassez の増生をみることがある (図 8-35)。
- ・病変周囲の骨が、しばしば反応性に増生する。

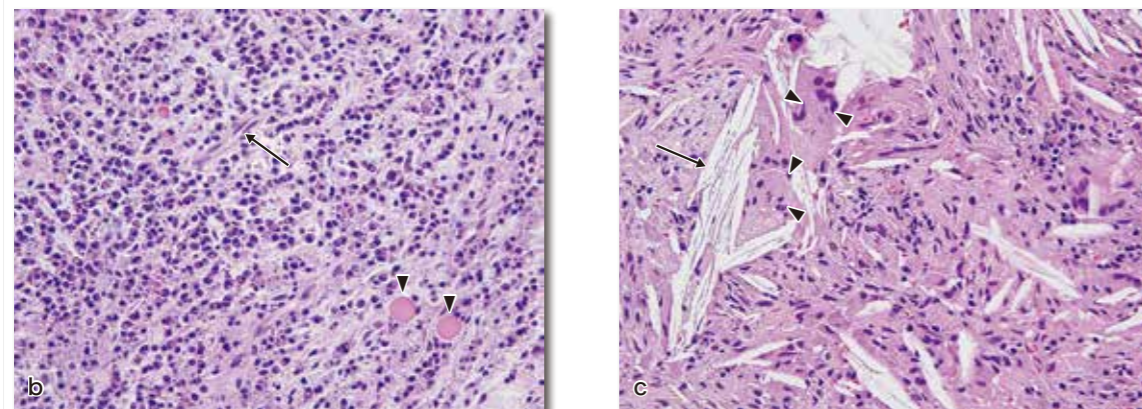
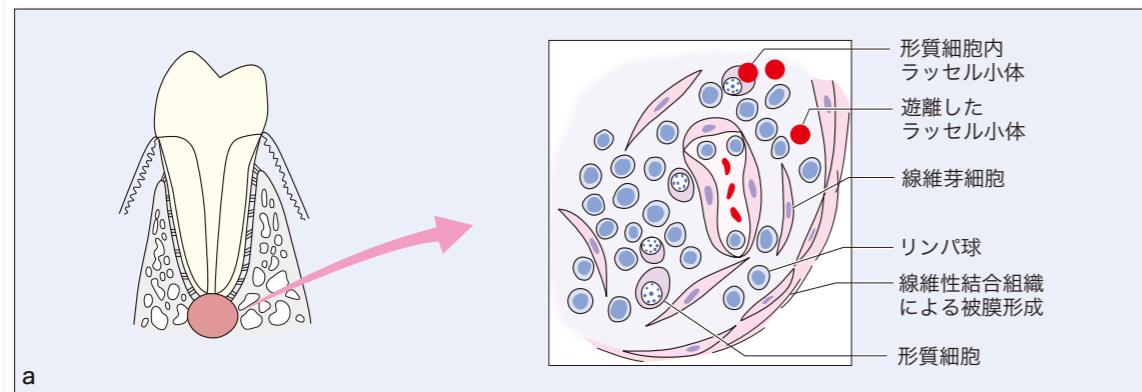


図 8-35 歯根肉芽腫

a: 根尖部に類円形の病巣が認められる。 b: 病変部は、リンパ球、形質細胞主体の炎症性細胞浸潤、毛細血管の増生 (矢印) および線維芽細胞の増生を伴う肉芽腫形成からなる。形質細胞のタンパク質変性の一種で、好酸性の球状構造をもつラッセル小体 (矢頭) もみられる。 c: 病変部にはしばしばコレステリン結晶が存在し、針状の空隙として観察される (矢印)。コレステリン結晶周囲には異型多核巨細胞の出現がみられる (矢頭)。

2 歯根嚢胞 radicular cyst

臨床所見

- ・自覚症状はほとんどない。
- ・軽度の骨硬化像を伴う、境界明瞭なエックス線透過像がみられる。

組織学的所見

- ・根尖部に生じた病的な空洞形成をみる嚢胞性病変で、嚢胞壁内面に上皮の裏装がみられる (図 8-36-a)。
- ・嚢胞壁は内側から、上皮層、(幼若)肉芽組織層、線維性結合組織層の3層から構成される (図 8-36-a, b)。
- ・壁内面を裏装する上皮は非角化性重層扁平上皮で、まれに粘液細胞や線毛細胞をみることがある。
- ・裏装上皮はマラッセの上皮遺残に由来する。
- ・上皮下にはリンパ球や形質細胞を主体とする炎症性細胞浸潤、毛細血管の増生、線維芽細胞の増生などからなる(幼若)肉芽組織の形成がみられる (図 8-36-c)。

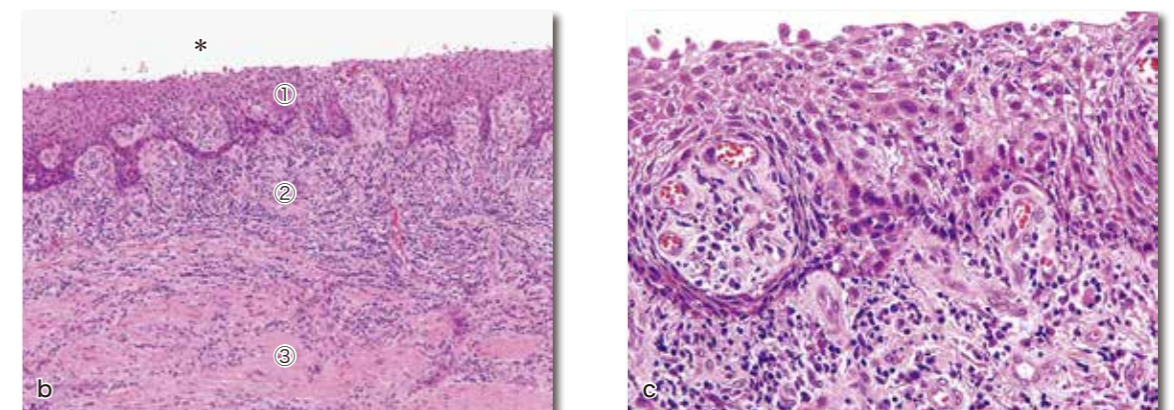
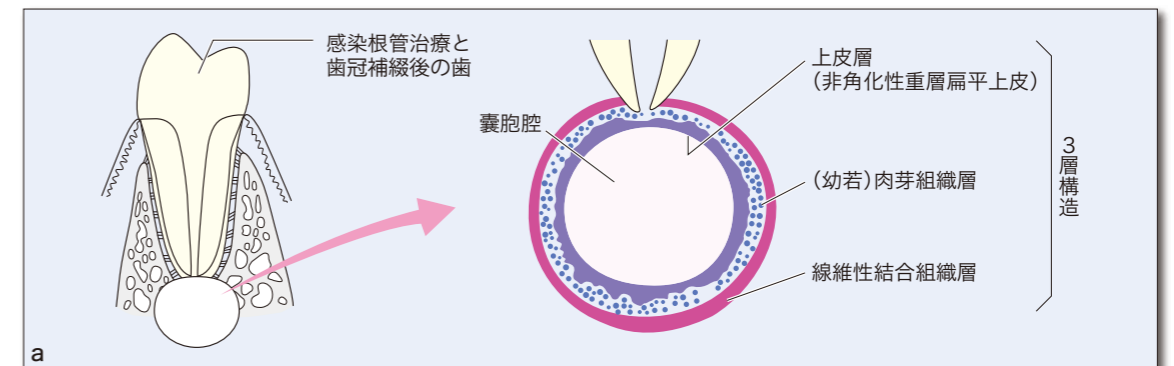


図 8-36 歯根嚢胞

a: 失活歯の根尖部に類円形の空洞からなる嚢胞形成がみられる。 b: 空洞 (*嚢胞腔) を囲む嚢胞壁は、内腔面から上皮層 (①)、(幼若)肉芽組織層 (②)、線維性結合組織層 (③) の3層からなる。 c: 嚢胞壁内面は、非角化性重層扁平上皮で裏装される。上皮下には、リンパ球や形質細胞主体の炎症性細胞浸潤、毛細血管の増生、線維芽細胞の増生などからなる肉芽組織がみられる。